第２学年２組　算数科学習指導案

平成３０年１１月２７日（火）５校時
指導者Ｔ１　眞鍋　純子
Ｔ２　江角　貴行

１　単元名　　かけ算（１）新しい計算を考えよう

２　単元のねらい
○　乗法のよさに気づき，ものの全体の個数をとらえるときに乗法を用いようとする。(関心・意欲・態度)
○　累加の考えや乗数と積の関係などを基に，乗法九九の構成の仕方を考え表現することができる。
(数学的な考え方)
○　乗法が用いられる場面を絵や図，言葉，式で表すことができる。乗法九九「５，２，３，４の段」を構成し，確実に唱えることができる。(数量や図形についての技能)
○　乗法が用いられる場合や乗法九九について知り，乗法の意味について理解する。乗法に関して成り立つ性質（乗数が１ずつ増えるときの積の増え方や交換法則）を理解する。(数量や図形についての知識・理解)

３　授業をするにあたって
○　本学級の実態

…＜個人情報保護のため省略＞…

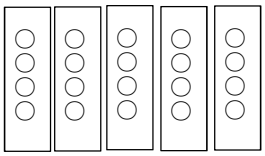
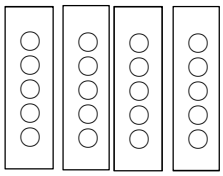
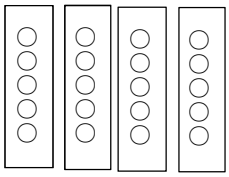
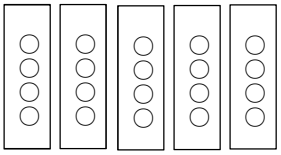
○　研究の重点との関わり
【研究の重点イ：児童が考えたくなる学習課題の工夫】
・乗法九九「５，２，３，４の段」と「６，７，８，９，１の段」の学習を通して，「かけ算九九のひみつを見つけながら，お菓子の家をつくっていこう」という学習課題を設定する。段の構成の仕方を考え，その段をマスターすることで，問題に使われたお菓子を手に入れて，お菓子の家をつくっていくことができることにする。本時では「５，２，３，４の段」のまとめとして，ドーナツの問題を取り上げる。（問題との出会わせ方）
【研究の重点ウ：話し合いを焦点化し，深めるための支援のあり方】
・本時では，式を書くときに被乗数と乗数を迷うような問題を取り上げる。問題を読んで式を書き，図や言葉に表すことにする。「式と図がつながらない」と困っているようなところをみんなで解決していきたい。(対話的な場の設定)
・お互いの考えを全体の場で共有することで，比較検討する。(多様な見方や考え方を共有する場の設定)

４　指導計画（全２５時間））
○第一次　かけ算（９時間）
○第二次　５の段，２の段の九九（６時間）
○第三次　３の段，４の段の九九（７時間，本時７／７時間）
○第四次　まとめ（３時間）

５　本時の学習
（１）ねらい
かけ算の式の意味「１つ分の数」×「いくつ分」を図や言葉，式などを用いて説明することができる。
(数学的な考え方)

（２）展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援（○）と評価	
	Ｔ１	Ｔ２
１　問題を読んで，場面を捉える。 おかしの　はこが　４つ　あります。１つの　はこには，　ドーナツが　５こずつ　入っています。 みんなで　何こに　なりますか。 ・今日はドーナツの問題だ。	○これまでの学習を想起し，学習への見通しをもつことができるようにする。 ○お菓子の家のどの部分になるか想像させ，学習への意欲をもつことができるようにする。	

2　個々に式をノートに書く。 ○式を書く。 ・４×５　・５×４ ・４×５かな，５×４かな。 ・式が違う人がいる。	○まず式を書いて，そのわけを考えるように促す。 ○机間指導で４×５，５×４を書いている様子を把握する。	○机間指導で４×５，５×４を書いている様子を把握する。 ○４×５が少なければ，４×５だとゆさぶる。
3　めあてを確認する。 □×□のわけを説明しよう。		
4　図や言葉，式で自分の考えを表す。 ・４×５  ドーナツの数と箱の数が逆。 ・４×５  式と図が合わない。 ・５×４  ・５×４  ドーナツが５個ずつで箱が４箱。 ・４×５　４が先に書いてあるから。 ・５×４　ドーナツが５こずつ入っていて４箱分だから。	○説明の仕方としてどのような方法（図，言葉，式）があったか確認し，板書しておく。 ○式がわからない等で困っている児童がいれば，困っていることを取り上げて全体に広げ，友達同士の支援につないでいく。 ○図の書き方が違った場合には，意味は同じであることを確かめる。	○児童のつぶやきを拾ったり表情を見取ったりして，困っていることを全体に広げるようにする。
4　ペアで説明し合う。	○ペアで説明し合うことにより，全員が自分の考えを伝えることができるようにする。	○児童の様子を見ながらペアで説明し合うよう，支援をする。
5　みんなで考えを説明し合う。 ○ノートを書画カメラで映して説明する。 ○黒板に図をかきながら説明する。 ○出てきた考えの中から，かけ算の意味をまとめる。 図に書くと式が見つかる。 「１つ分の数」×「いくつ分」＝「全部の数」になる。 ５こずつが４箱あるから，５×４。	○説明がわかったか，質問はないか問い返したり，紹介した児童とその考えを説明する児童を代えたりして，児童同士の話合いになるようつないでいく。 ○児童の言葉を使ってまとめる。 【考】かけ算の式を考え，図や言葉などを用いて説明することができる。（観察，発言，ノート，振り返り）	○児童の考えをホワイトボードに書く。
6　４つの視点から１つ選び，学習の振り返りを書く。		

（3）本時の評価

十分満足できる	概ね満足できる	支援を要する児童への手立て
既習の乗法の意味や九九の構成の考え方を基に，被乗数と乗数を迷うような問題を正しく立式し，図や言葉などを用いて説明することができる。 ・図や言葉を用いながら，１つ分の数が５でいくつ分が４だということを説明している。	既習の乗法の意味や九九の構成の考え方を基に，被乗数と乗数を迷うような問題を正しく立式し，図や言葉などを用いて表現することができる。 ・１つ分の数が５でいくつ分が４だということを図や言葉で表している。	児童が書いた式のわけを問いかけることで聞き，図や言葉につなげるようにする。 式が書けない児童には，何を困っているのか聞き出す。 （Ｔ２の役割）